

青龍権現老樹碑

下妻市鎌庭 18

下妻市立千代川中学校から直線距離で西南西へ約700メートルの所に鎌庭東公民館があります。建物の東側に「青龍権現老樹碑」といわれる記念碑が建っています。この記念碑は、大形村立大形中学校校舎建設に関わるものです。

太平洋戦争後、教育改革に伴い、各地で新制中学校が建設される

ことになりました。急遽開設された大形村立の中学校では教室が足りず、昇降口の土間の渡り板の上に机を並べ、座って授業を受ける有様だったようです。教室もなく、冷えた土間での授業は、成長しつつある子女の健康にも悪影響を与えかねない状態でした。

しかし、当時の大形村は貧しく、学校建設の予算もなく、村の人たちの寄付に頼るしかなかったといいます。世の中は戦後の混乱期。人々の生活は最悪の状態でした。寄付に頼るといっても学校建設の費用を集めるのは不可能に近いものでした。

この記念碑があるあたりには「青龍権現社」という社があり、樹齢4～500年に及ぶ7本の老木（榎5本、杉2本）が空高くそびえ、鎌庭地区の人たちは「権現様の御神木」として何代にもわたって崇めていたといいます。鎌庭地区の人たちは、中学校建設にあたり、「青龍権現」への懼れと老木への愛着心に突きながら御神木にすがろうと決意したよう

です。昭和23年（1948）11月、氏子が見守る中で「7本の御神木」は商人の手に渡りました。その売却益を校舎建築費にあてたということです。このような大形中学校建設にまつわる経緯を刻んだのが「青龍権現老樹碑」です。昭和28年（1953）にこの記念碑が建てられました。

大形村立大形中学校は、昭和の大合併による千代川村の誕生により千代川村立大形中学校となり、昭和33年（1958）に中学校の統合により千代川中学校が創立されました。大形中学校の跡地に大形小学校が入り、今に至っています。「青龍権現老樹碑」は、平成14年（2002）11月に文化財の指定をうけ、現在は、歴史資料として、下妻市指定文化財となっています。



茨城教育 第八五九号

平成三十一年二月二十日発行

編集責任者 高堀 正伸

発行人 高堀 正伸

発行所 一般社団法人 茨城県教育会

水戸市見和一 一三五六一二

電話 〇二九一三二一七四七

印刷所 有限会社山田軽印刷所